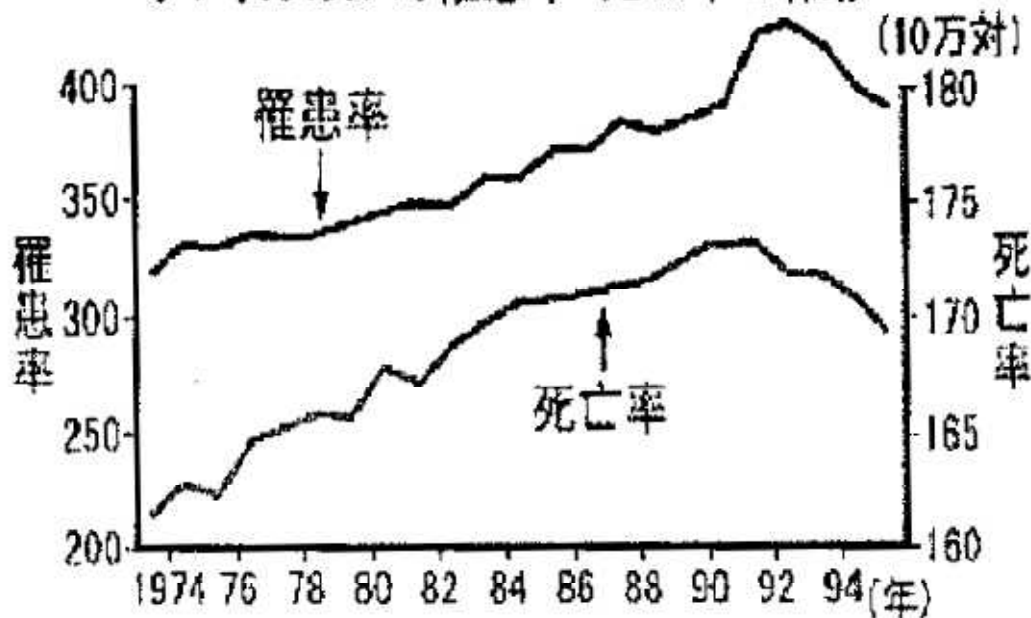


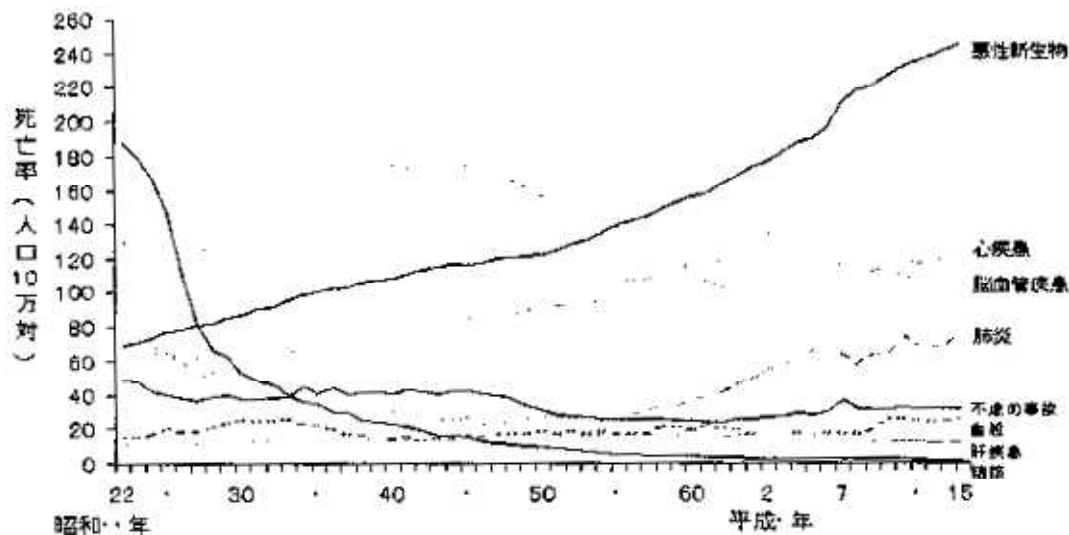
## 驚ガク!! アメリカ市民は知っている!

### アメリカのがん罹患率・死亡率の推移



## 残念! にほん市民は知らないで損している!!

図6 主な死因別にみた死亡率の年次推移



注: 1) 平成5・7年の心疾患の低下は、死亡診断書(死体検察書)(平成7年1月施行)において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の定着によるものと考えられる。  
 2) 平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10(平成7年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

---

## アメリカでは、ガン死亡率が激減

米ガン協会 (American Cancer Society) の発表した報告によると、米国でガン患者の死亡率がこの 10 年ほどの間に、急激に低下している実態が明らかになりました。2004 年のデータでは、全米で 137 万人がガンを発病し、56 万人がガンで亡くなりました。この死亡率は 1993 年以降、男性で年平均 1.5%、女性で年 0.8% の割合で改善しています。5 年生存率を見ても、1976 年の 5 年生存率が 50% だったが、2000 年の 5 年生存率は 64% と大きく高まっています。

ガンは死因の第 1 位で、年間 30 万人以上の方が亡くなります。日本では 2 人に 1 人がガンになり、3 人に 1 人がガンで亡くなります。ガンは、どの先進国の死因でもワースト 3 に入ります。日本の死因の 1 位で、31% を占め、現在も増加しています。

米国では、ガン治療と共に、ガンの予防政策が浸透しています。ガンの予防政策が事実欠落している日本ではガン死亡率は上昇の一途をたどっており、他の先進国と対照的な現状となっています。国立ガンセンターの発表では、1998 年に比べ 2015 年のガン患者は、男性 191%、女性 157% になると発表しています。先進国でガンがうなぎ上りなのは、日本だけです。これは、有効な予防策が実践されていないことが原因と指摘されています。日本の行政の健康政策には改善が必要だと言われています。

ガンの現状を正確に把握することは、対策をたてる上で欠かせません。その意味で、ガンの発生・生存・死亡の実態を知る「がん登録」が重要といわれています。ようやく、日本でも、世界より 30 年遅れで国立がんセンターが本腰を入れ始めました。これまでも、国立がんセンターは院内がん登録を行ってきましたが、入院患者のみを対象にしており、病期についての情報は含んでいませんでした。胃がん、肺がん、結腸がん、乳がんに関しては病期別の 1～5 年生存率も示されていますが、各診療グループから個別に提出されたもので全体を網羅するものとして作られていないことが、他国のガン登録と大きく異なります。これは、がん治療の総本山である国立がんセンターでさえ、疾病、病期別に網羅的に同じ条件で継続的にフォローしたデータがないことを意味しています。ガン登録の活用には、全国への普及に数年、5 年生存率を集計するには、さらに数年を要します。わが国で施設別・地域別のがんの治療成績が明確になるには、10 年以上かかると思われます。日本のがん登録は先進国の 30 年遅れと言われている理由です。

### **重要**

アメリカは市民も専門家もガンの予防、治療策を知っている。

86 年、アメリカ上院労働・人間資源委員会での証言

アメリカ国立ガン研究所(NCI)の予防部長グリーンウォルド博士の証言

「現在の知識を十分に活かせばガンの 70%、心臓病の 60% は減らせる」

アメリカ国立ガン研究所(NCI)所長デヴィタ博士の証言

「ガン細胞の中には抗ガン剤対抗遺伝子とも呼ぶべき遺伝子があり、抗ガン剤をぶつけてもガン細胞はこの遺伝子の働きで、抗ガン剤に負けない細胞に変身させてしまうことがわかった。」

90 年秋、アメリカ議会技術評価局(OTA)のガン問題専門委員会の発表

「抗ガン剤、放射線、手術を主体とする現代医学のガン療法は、過去 50 年来ほとんど進歩の跡が見られない。アメリカ国立ガン研究所(NCI)もゲルソン療法など自然で効果的なガン療法の研究に

---

力を入れよ。」

アメリカでは、90 年前半からガン死亡率が連続して低下しています。

日本のデータがそろそろまで待つ必要はありません。アメリカなどの健康政策から学ぶことで、最新の情報と対策を知ることができます。

アメリカのガン死亡率低下の最大の理由の一つは、代替医療を積極的に取り入れたからと言われています。代替医療を知ることは、一時的なブームではなく、今後の医療と健康の根本にかかわっています。

では、アメリカの代替医学(CAM)を詳しく見ていくことにしましょう。